

## 第4回 蕨市将来ビジョン審議会 会議概要

■日 時 令和5年8月4日（金） 午前10時00分～11時15分

■場 所 中央公民館1階・集会室

■出席者 （敬称略）

委員：林大樹（会長）、坪井真（副会長）、前川やすえ、岡田三喜男、武下涼、  
本田てい子、平田毅、佐藤政美、上野寿一、智内兄助、長谷川浩司、岡本和子、  
笹渕敏子、島村幸子

事務局：阿部泰洋（総務部長）、佐藤則之（総務部政策企画室長）、島田雅也（総務  
部政策企画室主幹）、市川翔太（総務部政策企画室主査）、  
横山徹・佐久間萌（株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング）

傍 聴：1名

### ■次 第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 前回の会議概要について（確認）
4. 議題  
(1) 蕨市将来構想（素案）について  
(2) その他
5. 閉会

### ■内 容

#### 【前回の会議概要について（確認）】

事務局から前回の会議概要について確認を行い、了承された。

#### 【議題】

- (1) 将来構想（素案）について

事務局から、将来構想（素案）について説明した。（資料1参照）

○1. 目的と期間、2. 目指すまちのビジョン

委員：10年間でまちが目指すビジョンとして、とても良いフレーズだと思う。これまでの議論も含まれており、内容として適している。

委員： 「みんなで」というフレーズは、蕨らしさがあり、とてもよいと思う。

### ○3. まちづくりの基本フレーム

会長： 「①にぎわいの空間づくり」の記載の中で、「蕨駅西口市街地再開発事業もいよいよ完了し」とあるが、実際にいつ頃完了するのか。

事務局： 現時点では令和8年度の予定となっている。新ビジョンの計画期間の中で完了する見込みであるため、このように記載している。

### ○4. 分野別の目指す姿

委員： 将来構想のなかを含むのは難しいことだが、10年間という一定期間の成果を確認していくためにも、その下の計画などには各分野の到達レベルなど定量的な状況を具体化してもよいのではないか。

会長： 将来構想を受けて作成する基本計画では、分野ごとの定量的な目標が示されるのか。

事務局： 基本計画については、具体的な内容は固まっていないが、成果等を測る意味でも、最低限必要な指標なども盛り込みつつ示すことを想定している。

#### < (1) 安全で安心して暮らせるまち >

委員： 「自助・共助・公助」の考え方はよいが、もっと市民にとって分かりやすい表現とした方が理解してもらえるのではないか。例えば、「みんな」という言葉を使うのも一案かと思う。

副会長： 確かにこの3つの言葉は行政でよく使われるが、市民には分かりにくいと感じる。「自助」は自ら備える、「共助」は地域やみんなで支え合う、「公助」は市役所や専門家たちが支える、というイメージが伝わるような表現としてはどうか。

#### < (3) みんなにあたたかく健康に生活できるまち >

委員： 蕨市には多くの外国人が住んでおり、審議会でも意見があったため、この分野にも「多文化共生」に関する記載があってもよいのではないか。

会長： 「多文化共生」については、分野別の目指す姿(6)で触れられているが、各分野に関連するものだと思う。

#### < (4) にぎわいと活力、市民文化と歴史がとけあう元気なまち >

委員： 蕨市の文化の向上のためには、歴史民俗資料館の更なる活用を進めていく必要があると思う。もっとチャージングで魅力的な展示空間づくりが必要だ。また、市内には芸術・文化的資源が多くあるが、その掘り起こしに市民レベルで取り組んでいく必要があると感じている。また、今秋に完成する新庁舎の1階

には、ガラス張りの展示スペースができるが、蕨市の顔になるような展示スペースにしてもらいたい。展示スペースを有効活用し、面白い空間にできたらよい。

委員：今回示された将来構想には、「産業支援」や「観光事業」という言葉が入っており、これにより、将来構想に基づく基本計画では、産業や観光に関する具体策やKPI（重要業績評指標）等が示せるのではないか。その部分に関しては、現行ビジョンよりだいぶ記載が前進していると感じる。

#### <（５）環境にやさしく快適で過ごしやすいまち>

委員：「環境にやさしく持続可能なエコシティ」を目指す所であり、再生可能エネルギーの活用やごみの減量化等を進めることがうたわれているが、その前に、ごみ捨てマナーやモラルは大きな問題だと感じている。関係のないエリアから勝手にごみを持ち込む人もおり、地域の人たちが日頃の清掃などで非常に苦慮している状況だ。

長年、蕨市に住んでいるが、コミュニティがしっかりしていて非常によいまちだと思う。将来、更に住みやすいまちになるためには、こうしたごみ問題に限らず、地域の身近な問題で困っている人たちに対して、市がもっと寄り添って相談を受けることができるよう体制を強化する必要があるのではないか。市民一人ひとりの些細な声や、悩みを吸い上げる取組が大切だと思う。

#### <（７）市民と市がともに力を発揮して創る自立したまち>

副会長：先ほどの市が市民に寄り添って対応することが大切というご意見は、この分野の「市は市民ニーズの把握に努める」という記載に関連していると考えられると思う。ごみの問題も含めて、暮らしの困り事に対して、市がしっかり「公助」のレベルで対応を進めていただければと思う。

### ○５．まちづくりの重点方向

#### <（１）安全・安心で環境にやさしいまちをつくる>

副会長：「持続可能な循環型の環境にやさしいまち」とあるが、「環境にやさしい持続可能な循環型のまち」と並び替えた方が趣旨がより理解できるのではないか。

#### <（２）子どもの未来輝くまちをつくる>

委員：「親世代が安心して子どもを産み育てられる」とあるが、その記載の想いを聞きたい。

事務局：妊娠・出産・育児と切れ目なく、親や保護者の皆さんが地域で安心して子育て

てができる支援のいっそうの充実が求められていることから記載したものである。また、現在さまざまな変化のある時代のなかで、子どもたち自身がどのように育っていくかが重要であることから、親世代の記載に続き、「子どもたちの未来が輝く」という表現を並列させている。

委員： 「妊娠期からの切れ目ない支援」は、親世代にとって安心できる言葉だと思う。最近、不登校など学校に行けない子どもの親への支援が大きな課題になっており、不登校の子どもに対してオンラインで支援している自治体もある。蕨市は子育てしやすいまちだと思っているが、こうしたあまり表に出てこない少数のニーズも吸い取ってもらえるとよいと思う。

委員： まちづくりの重点方向（１）において、「子どもが被害者となる交通事故」という記載があるが、この分野にも「全ての子どもを犯罪から守る」など、子どもの安全安心という視点が必要ではないか。

<（３）にぎわいあふれる元気なまちをつくる>

委員： 「市外からの人を呼び込む」とあるが、この一文だけだと唐突感があるため、何のために市外から人を呼び込むのか、その説明を加えてはどうか。

委員： 分野別の目指す姿の（４）と同様に、産業支援（育成）について記載してはどうか。文中でも、蕨市は多彩な資源を有していることが示されているが、地域資源を生かした商品開発に取り組んでいる事業者などもあり、産業を育てていく意味からも、産業支援の表現を加えてほしい。また、市外からの人を呼び込むためには、シティプロモーションの推進が重要だと考える。教育や福祉・介護、さまざまなまちづくりの課題を解決し、取組を充実させ、それを市内外に積極的に情報発信していくことで、多くの人に選ばれ、住んでもらえる持続可能なまちになるのではないか。

また、全体的な感想としては、今回、事務局から示された将来構想は、行政分野の項目を網羅しつつ、時流に合わせた課題がそれぞれの項目に入っており、よくまとまっていると感じた。

委員： 「商店街の魅力向上」という表現は、商店街などまちのにぎわいが低迷（衰退）しているということが前提のように感じる。決してそんなことはなく、先日の地域の盆踊り大会なども非常に多くの人でにぎわっていた。現在もにぎわいのあるまちだが、更にもう一歩進めていく、というような表現がよいのではないか。

委員： 蕨市民音楽祭は、市外からも多くの人に来ており、にぎわいづくりに重要な

役割を果たしているため、今後もっと大きく成長するような方向付けが必要だと考える。

委員： 「選ばれるまちづくり」というのは、にぎわいの分野だけでなく、子育てや教育なども含め、生活都市としての魅力向上を図ることが重要だと考える。現状では、一つの分野に絞られているため、他の分野も織り込んだ記載とする必要があるのではないか。

委員： 商店街の魅力の向上について、行政として今後の方向性や具体的なビジョンはどのように考えているのか。

事務局： 商店街の魅力向上をはじめとしたにぎわい創出については、蕨駅西口市街地再開発と絡めて、今後、中山道沿いににぎわい交流拠点の整備を検討するなど、エリアリノベーションを推進することとなっており、こうした新たな取組や、これまでの空き店舗対策等の継続を含め、商店街の魅力の向上に努めていこうというものである。

委員： 商店街の支援については、お祭りなどで一時的に商店街に人を集めるのではなく、継続的に人を呼び込む仕組みづくりや、商店街のスペースを活用して事業を始めることができるようサポートすることが必要だ。商店街でビジネスをして潤っていくことが、本当の意味での活性化につながると思う。

< (4) みんなにわたたくだれもが健康で住みやすいまちをつくる >

副会長： 不登校児童への支援についてご意見があったが、社会人になっても引きこもりになるケースがある。ここでは、主に高齢者や障害者に関する記載となっているが、この分野の考え方の一つに「ウェルビーイング」（心身と社会的な健康などを意味する概念）というものがある。こうした観点から、子どもからお年寄りまで、何らかの支援を求めている方々も含め、サポートをしていくことが必要ではないか。

委員： 以前住んでいたところでは、区画整理に伴って散歩道が整備されたことで、そこを利用する人が増えた。歩きたくなるような道やまちになれば、人は自然と行動を起こし、健康づくりにつながっていくものと考え。文中の「基盤整備」という言葉には、こうした要素も含まれてほしい。

委員： 今後は施設に入ることなく、健康に年をとる人が多くなっていくと思う。いきいき百歳体操をしているサークルなどもあるが、市内のある地域ではできているが、ある地域ではできていないという実態があり、健康づくりについては、いっそうの推進が必要である。

委員： 「スマートウェルネスシティ」とはどのようなものか。

事務局： 住民が健康で元気に幸せに暮らせる新しい都市モデル構想であり、地域の担い手である市民の主体的な健康づくりを支援し、地域の活性化を進めるものである。市としては、現在、次期健康アップ計画の策定を進めており、そのなかで、歩き続けられるまちづくりなど、スマートウェルネスシティの推進に向けて、具体的な施策を検討していくことになると思う。

委員： 今後、新ビジョンに位置付けられた取組を進めていくなかで、コンサルタントなど民間活力の導入は考えているのか。また、その際には民間任せではなく、市が軌道修正を行い、民間の知恵を借りながら事業を進めていくこと大切だと考える。

事務局： それぞれの分野のプロジェクトを進めるなかで、必要に応じてコンサルティングなど民間の支援を取り入れていくことは考えられるが、その内容などは、最終的に市で判断し進めることになる。

<その他全体を通じて>

委員： 将来構想の文章は、難しいものではなく、市民の皆さんにとって、少しでも分かりやすい表現ができるとうい。

(2) その他について

事務局から、次回は8月25日(金) (※会場は福祉・児童センター) に開催し、将来構想については、パブリック・コメント前の最終案の確認、また、答申書の検討を行う予定であることを報告した。

【閉会】

以上